

平塚市図書館の今後のあり方に関するインタビュー調査

- 1 目的 様々な層の市民が図書館に対して持つニーズや意見を把握する。また、事後に実施予定のアンケート調査の質問項目の参考資料とする。
- 2 調査方法 図書館職員がインタビュアーとなり、様々な層の市民を調査対象(表1)に設定して半構造化インタビューを実施した。
なお、表1中のNo.1は授業、No.7は会議内で実施したグループワークであるが、インタビューと同様にニーズの把握を目的として実施したため、今回の報告に含めている。
- 3 調査対象 表1のとおり
- 4 調査期間 令和元年7月3日(水)から8月2日(金)まで
- 5 質問項目 (1) 図書館利用経験の有無、頻度
(2) 図書館を利用する目的(非利用の方の場合はその理由)
(3) 平塚市図書館のよいところ・不足しているところ
(4) 仕事や生活に関する情報を何から得ているか【No.8 勤労者のみ】
(5) 今後の図書館に望むサービス
(6) もし図書館が統廃合したらどう思うか【No.5 子育て世代から質問】

表1 インタビューの実施期間及び調査対象

No.	調査日	属性	調査場所	人数	備考
1	7月3日	大学生	東海大学	11名	司書課程の授業で質問用紙に記入の形で回答、うち3名が授業後にインタビューに協力
2	7月4日	高齢者	平塚市福祉会館	9名	うち1名は福祉会館職員
3	7月11日	学校関係者	平塚中等教育学校	8名	2名がインタビューに協力、6名が質問用紙に記入の形で回答
4	7月11日	高齢者	平塚市南部福祉会館	6名	
5	7月16日	子育て世代	つどいの広場きりんのうち	10名	うち3名は施設職員
6	7月16日	図書館と関わりのある市民	升水記念市民図書館	10名	升水記念市民図書館主催の勉強会の後にインタビューを実施
7	7月18日	学校図書ボランティア	各中学校区子ども読書活動推進協議会代表者会議	16名	「図書館の活用方法」というテーマをグループワークで話し合った
8	7月30日	勤労者	市内公共施設	1名	市内在住都内で起業した方
9	7月30日	勤労者	市内飲食店	1名	市内飲食店経営者
10	8月2日	勤労者	市内事業所	1名	企業図書室勤務の方

1 図書館利用の有無、頻度

高齢者から勤労者、子育て世代と様々な属性の方を対象にインタビューを実施した。全ての属性(表1のNo. 6・7を除く)で図書館を使っている人、使っていない人の双方から話をきくことができた。

図書館の利用頻度については、定期的に利用しているという方から全く利用していない方までそれぞれだった。

2 図書館を利用する目的（非利用の方の場合はその理由）

(1) 利用する目的

ア 趣味・娯楽・教養のための利用

趣味、小説などの娯楽のための資料及び郷土の歴史を調べるための利用をする発言があった。高齢者からは学びについての発言がみられ、図書館が生涯学習施設として機能していることがあらためて確認された。また、録音図書などの資料により、障がいを持つ方の生活に役立っている様子がうかがえた。

主な発言

- ・大学図書館には小説娯楽系、絵本はないので、それを借りるために公共図書館を利用する(大学生)
- ・趣味(囲碁)の本、大活字の本を借りる(高齢者)
- ・文化財に関することや地域の歴史を調べるために図書館を利用しようと思っている(高齢者)
- ・定年になってからだが、新聞を読むようになった(高齢者)
- ・年齢を重ねるにつれて、自分でできることが少なくなるが、図書館に行くことで視野が広がって勉強になる(高齢者)
- ・子どものため、孫のために一緒に図書館に行って本を借りる(市民)
- ・学校は教えてくれるが、社会に出たら自分で調べないといけない。図書館に行けば学べる(高齢者)
- ・目が見えなくなった人でも録音図書を聞くと、ホッとして命が助かるというようなこともあると思う(高齢者)

イ 仕事・学業・健康・子育て等の情報を得るための利用

仕事や病気、育児など身近に抱える疑問や課題について調べるための利用をしている発言がみられた。

主な発言

- ・仕事に関連する専門誌を読んだり、文献を探したりしている(高齢者)
- ・授業に関連する資料を探す。調べ学習で生徒が困っているときに、資料を平塚市図書館で探すように提案している(学校関係者)
- ・病気のことを本で調べる(高齢者)
- ・課題のための利用が多い(大学生)
- ・育児のための本を借りる(子育て世代)
- ・学校の先生が発表や出し物などのイベントのときに図書館で本を借りていた(勤労者)

ウ 図書ボランティア活動のための情報

市内では地域や学校そして図書館で図書ボランティアの方が活動している。図書ボランティアからは日頃の読み聞かせに利用する資料を借りる、図書館の展示により資料を知るといった効果を得ているという発言がみ

られた。

主な発言

- ・読み聞かせ活動ための本を選んで借りている(市民)
- ・(小学校の)朝の読み聞かせのため、3分間で読み終わる本をこども室の司書に依頼して探してもらい非常に助かった(図書ボランティア)
- ・展示コーナーの本を参考にしている(図書ボランティア)

(2) 利用方法・利用している機能

ア 資料の探し方・ブラウジング

特定の資料を見つけるために棚を探すのではなく、自由気ままに探すという発言がみられた。特に高齢者からは検索用端末の操作が不得意という発言があり、そのような利用者は開架資料からのみ資料を探している様子うかがえた。勤労者からは仕事の資料を借りる、働く場所として図書館を使うという発言がみられた。図書館を使い慣れた人と一緒に行き、お薦めの本を紹介してもらおうという利用もみられた。博物館を利用した後に図書館に立ち寄り、映画会に参加するという発言もみられた。

主な発言

- ・よいのがないのかなとうろろうして探すことが多いし、それが楽しい(大学生)
- ・機械が得意ではないので、端末、予約は使わない。棚の本をみて選んでいる(高齢者)
- ・相互貸借を利用する(市民)
- ・使い慣れた人と一緒に行くとよい。自分では思いもしなかった棚からお薦めの本を見つけてくれる(高齢者)
- ・子どもと博物館でプラネタリウムをみて、調べてみようかとついでに図書館に寄る(勤労者)
- ・子どもが小さい頃は月に1~2回映画会に行き、こども室で本を借りていた(勤労者)

イ 場としての機能

滞在利用、移動図書館あおぞら号(以下あおぞら号)のステーションに友人と誘い合って行く、また公民館図書室に関してではあるが中高生など YA(ヤングアダルト)層の居場所など、場として使われている発言がみられた。

主な発言

- ・図書館に行くと半日は滞在する(高齢者)
- ・友人があおぞら号を利用して、友人同士で「一緒に行こう」と誘い合ったりしている。お年寄りで本が好きな人にはよいと思う(高齢者)
- ・(公民館で)中学生の二人組が図書室を利用しようとしていたので話しかけたら、「俺ら反抗期で家にいたくない」と言っていた(高齢者)

(3) 図書館非利用の理由

図書館を利用したことがない方、また、現在利用していない方へ非利用の理由を質問した。

ア 距離・動線・開館時間

図書館と生活圏との距離があると非利用につながる。そもそも地区に図書館がないため利用できないという発言や、生活圏に図書館がないために利用しないという発言がみられた。特に高齢者、子育て世代からは車で行きにくいから、図書館を利用しなくなったという発言があった。

主な発言

- ・図書館が遠くて使えない(図書ボランティア)
- ・駅から職場までの間にない(学校関係者)
- ・車に乗らなくなったら利用しなくなった(高齢者)
- ・開館時間には行けない(学校関係者)
- ・高校3年生の受験生は塾の自習室を利用する。中央図書館は 19 時までなのでその後に行くところなくなる(勤労者)
- ・駐車場が有料になって行きにくい(子育て世代)
- ・車で南図書館を利用している。中央は駐車場が混むので利用しなくなった(高齢者)

イ 多忙、他にやることがあるため

子育てで自分の時間がとれない方や趣味など他に優先してやりたいことがある方からは来館しない発言がみられた。

主な発言

- ・子守中に行けない(子育て世代)
- ・ヨガやストレッチ体操等、自分の時間で忙しい(高齢者)

ウ 子ども

子育て世代からは子どもの声や動きが迷惑になると思い、図書館を利用しないという発言がみられた。また、子どもが本を破損することを懸念する発言もみられた。

主な発言

- ・2歳の子どもが声を出したりするのが迷惑となりそうなので、最近行ってない(子育て世代)
- ・おはなし会へ1歳4か月の時に行ったが、落ち着いて聞けなかったため行かなくなった(子育て世代)
- ・子どもが静かにしなければいけないのかなと思って行けない。本は買っているが、もっと色々な本を読ませたいので、本当は図書館を利用したい(子育て世代)
- ・子どもが本を噛んで食べてしまうので借りられない(子育て世代)

エ 健康上の理由

高齢者からは目が悪くなったので利用しなくなったという発言が多数みられた。

主な発言

- ・現在は目が悪くなったので使わない(高齢者多数)
- ・目が悪いため図書館を使ってこなかったが、もし図書館を利用していたらもっと人生が豊かになったのではないかと思う(高齢者)

3 平塚市図書館のよいところ・不足しているところ

(1) 平塚市図書館のよいところ

ア 立地・サービス網

図書館があること自体、また現在の中央図書館、地区館、そしてあおぞら号がそろっているところをよいとする発言がみられた。また、中央図書館は他の公共施設や商業施設の近くに立地し、そのことを便利とする発言がみられた。

主な発言

- ・図書館があることがありがたい(高齢者)
- ・地区図書館3館とあおぞら号があり、市全域を意識していること(市民)
- ・中央図書館の場所が便利。市役所やららぽーとが近くにあり、そのついでに行ける(子育て世代)

イ 施設

中央図書館の1階から3階まで区切られていることや、こども室をよいと捉えている発言がみられた。また、南部福祉会館との複合施設である南図書館について、利用者同士の交流や運動、読書ができる点をよいところとする発言がみられた。

主な発言

- ・中央図書館は1階から3階で資料のゾーンが分かれているところ。子ども目線だと(資料の難易度として)レベル1、2、3とかだとわかりやすい(学校関係者)
- ・幼児・児童のスペース(学校関係者)
- ・こども室は書架が低く、大人にとっても遠目が効くので安心(勤労者)
- ・南図書館は複合型施設であり、プール、カラオケ、ご飯を食べて、みんなで話をして、本を読むことができる。このような施設は市内で一つだけ(高齢者)

ウ 資料・サービス

資料に関しては蔵書の多さや紙芝居、大型絵本の充実を挙げる発言がみられた。子育て世代からはブックスタートが役立っているという発言がみられた。こども室の資料の表紙をみせる排架方法や図書館のキャラクターがあることがよいと捉えられていた。また、今年度の子ども読書活動推進フォーラムで実施した小学4・5年生を対象とした読書感想文の書き方講座についての発言もみられた。

主な発言

- ・蔵書数が多い(大学生)
- ・紙芝居、大型絵本が充実している(市民)
- ・ブックスタートはあったほうがいい。子育てがはじめてだと、赤ちゃんの絵本で何から見せようか迷う(子育て世代)
- ・中央は絵本の面出しが多くてよい(市民)
- ・キャラクターがあること(学生)
- ・図書館で読書感想文の書き方のイベントを行っているのはとてもよいと思う。年に1〜2回でも、夏休みだけでもいいから、図書館や本に足を運ぶイベントを開いてほしい(勤労者)

(2) 平塚市図書館の不足しているところ

ア 立地・サービス網

自宅や駅から遠いこと、バスの路線が少ないという発言がみられた。

主な発言

- ・家から遠い(大学生)
- ・駅から遠い(大学生)
- ・バスの路線が少ない。老人は金を惜しむし、来るのが大変(高齢者)

イ 施設

施設面では中央図書館入口のスペースの活用や、談話スペースがないこと、書架が高いという発言がみられた。また、周辺も含めて夜は暗いという発言がみられた。

主な発言

- ・中央1階ホールの使い方がもったいない(学校関係者)
- ・談話できるようなスペースがない(学校関係者)
- ・棚の高いところに本があると「とれないなあ」と思ってしまう(高齢者)
- ・夜は文化公園、駐車場も暗くなり、冬場は特に防犯上子ども一人で行かせにくい(勤労者)

ウ 資料・サービス

特定の蔵書が少ないことや中高生などを対象とした YA(ヤングアダルト)コーナーが充実していないという指摘があった。また、図書館の分類や配置、使い方のルールがわからないという発言がみられた。既に実施している赤ちゃんおはなし会に関して、知らないという子育て世代の発言が多くみられた。チラシ等のデザイン面の不足を指摘する意見があった。

主な発言

- ・子どもの本(ページが厚い乳幼児向け)が少ない(子育て世代)
- ・YA(ヤングアダルト)が微妙。彼らがどこに行っているか迷う(市民)
- ・蔵書の偏りがある(勤労者)
- ・人気の本だと時間がかかってしまうので、予約は使わなくなった(高齢者)
- ・小説の横置き(市民)
- ・図書館の並び方のルールがわからない(子育て世代他)
- ・(生徒は資料が)他館にあるときにどうしたらよいかわからない。予約などを知らない。席に座っていいか、本を手にとっていいかなど基本的なことがすぐわかるとよい(学校関係者)
- ・お話ををもっと周知した方がよい(子育て支援施設職員)
- ・南はイベントをしているのか(市民)
- ・デザイン的な面が不足している(勤労者)

4 仕事や生活に関する情報を何から得ているか

勤労者へ仕事や生活に関する情報を何から得ているのか質問した。図書館に関すること以外では、飲食店経営者から過去には本を、現在は漫画、インターネット、自分が実際に食べたものを参考とする発言がみられた。市内事業所勤務者からは、学術雑誌や外部データベースを利用している発言がみられた。都内で起業した経営者からはインターネット上の情報では不足しているため、本を利用していること、インターネット通販サイトや自分が気になる人が薦めている本を購入しているという発言がみられた。

主な発言

- ・(飲食店の情報について) ネットがないころ、10～20年前はレシピ本を買っていた。いまはネットや実際に食べたものを写真に撮ったりメモをしたりして試している(飲食店経営者)
- ・漫画本(『酒のほそ道』など)を参考にする。レストラン系の雑誌は読まない(飲食店経営者)
- ・研究所なので、学術書籍・学術雑誌(事業所勤務者)
- ・検索ツールや外部データベースを利用(事業所勤務者)
- ・ネットでも調べるが、自分のほしい情報は足りない。統計データや論文、ノウハウが書かれた本を足りない知識を補うために購入する。ネットで注文し、書店にはいかない。統計の生データは読み込むのが面倒なので使わない(都内企業経営者)
- ・Amazon で直接検索や、Facebook で他の気になる人が薦めている本を購入する。誰が読んだ本かを重視している(都内企業経営者)
- ・知り合いでデジタル書籍の読み上げ機能を使っている人がいる(都内企業経営者)

5 今後の図書館に望むサービス

(1) 今後の平塚市図書館に望むこと

ア 立地・サービス網・開館時間

貸出返却の利便性向上や開館時間の延長、来館せずに資料を借りられるサービスを望む発言がみられた。

主な発言

- ・駅直結で返却できるサービス(大学生)
- ・あおぞら号が東海大湘南キャンパスに来る(大学生)
- ・OPACで予約した本を自宅に郵送(大学生)
- ・地区図書館の開館延長。18時まで。曜日限定でもよい(市民)
- ・社会人の人は17時までだと行けないので、週一回12時開館22時閉館でもよいのでは(勤労者)
- ・図書館に行けないので、電子書籍の貸し出しはよい(福祉会館職員)

イ 施設・設備

読書や調べ物をする静かなスペースと子どもやグループの利用者がある程度にぎやかにしてよいスペースとを分けることを望む発言がみられた。子ども対象の相談コーナーや、カフェや飲食可能でゆったりできるスペース、また、書架のそばに椅子を置いてほしいという意見や自動貸出機を求める発言がみられた。勤労者からは電源席の充実と、照明や家具をデザイナーから提供してもらおうという提案があった。

主な発言

- ・静かに読むスペースと、騒いでもよいスペースにコーナーを分ける(子育て支援施設職員)
- ・居心地がよい、開放的な空間(大学生)
- ・ゆったりとした空間(高齢者)
- ・座って読む場所がもう少しあるといい。中央図書館にも北図書館のように書架のブロックごとに小さい椅子があると、選ぶときにちょっと座れて便利(高齢者)
- ・子ども対象の相談コーナーがあるとよい。貸出カウンターと同じだと利用者が遠慮してしまう(学校関係者)
- ・カフェ(大学生)
- ・子連れで行けそうな気どらない飲食店、食堂(勤労者)
- ・飲食しながら読むことができるスペース(勤労者)
- ・パソコンを常設(大学生)
- ・(南図書館)お子さんの部屋が別にあるとよい(高齢者施設)
- ・小さい子が屋内で自由にできるところがあるとよい。屋外は危ない(高齢者)
- ・貸出返却でカウンター業務が追われるのであれば、自動貸出機があるとよい(学校関係者)
- ・個人できても集中できるよう、机やテーブルに衝立を設置してほしい(高齢者)
- ・Wi-Fi 完備と電源席(勤労者)
- ・新しい市役所はシステムティックになった。図書館も同じレベルで考えるべき(勤労者)
- ・照明や家具など、市内の企業やデザイナーに無料で提供してもらい、チラシなどを置く。全体のコーディネートはコーディネーターにやってもらおう(勤労者)

ウ 資料・サービス

学校関係者からは気軽にに行ける図書館の「敷居の低さ」を求める発言がみられた。また、子どもと一緒に本を選べる場所や、本の見やすさや居心地を求める発言がみられた。資料についての要望では、子育てや病気等の生活上で抱える課題についてわかりやすい資料を求める発言や、平塚らしさを出すことへの発言がみられた。資料の提供の仕方について、子どもの月齢別の絵本の紹介などきめ細かいサービスや、ツイッターやSNSの利用、電子書籍などの活用についての発言が見られた。学校関係者、市民から学校の授業や教育に関する研究支援、生徒への教育的なレファレンスを求める発言がみられた。

主な発言

<「敷居の低さ」・使い勝手>

- ・気軽にに行けること(学校関係者)
- ・子どもを連れて図書館に行くと、自分の本を選びたいが、子どもの相手をする必要があるので大人の本が探すのが難しい。子どもの本と一緒に選べる場所(福祉会館職員)
- ・基本的には今のままで、本を見やすくしたりして居心地をよくしてほしい(勤労者)
- ・今行っている人はあまり進化を求めているかもしれないが、新規に人に来てもらうには必要かもしれない。1回も行ったことのない人は入りづらい(勤労者)

<資料について>

- ・平塚らしさをもっと出してほしい(市民)
- ・地区図書館それぞれの推しがほしい(市民)
- ・病気のことが理解出るような本がほしい(高齢者)
- ・薬に関する本などで大事なことが大きい字で書いてあるような(高齢者)
- ・漫画入りの資料があるとわかりやすい(高齢者)

<資料の提供の仕方について>

- ・地区図書館の図書館機能強化(市民)
- ・月齢で人気の絵本を知りたい(子育て世代)
- ・文献資料全般(歴史的)のデータ化と提供(学校関係者)
- ・電子書籍は図書館の管理がしやすくいいかもしれない。返す手間がなくてよい。なくすということがなくなるのでいいかもしれない。5～10年後はそうなっているかも(勤労者)
- ・(ツイッター)1日1ツイート。今はイベントやお知らせばかり。本に関するツイートや、図書館のHPに誘導するツイート(市民)
- ・SNSで興味がわく人が定期的(毎日か週1)に本を紹介しあえる環境をつくるとよい。文学、ビジネス、児童書、絵本などカテゴリ分けされているとよい(勤労者)

<学校教育支援>

- ・単なる貸出・返却だけではなくレファレンスで構っていただける図書館(学校関係者)
- ・教育的で、生徒に考えさせるレファレンス(学校関係者)
- ・市教員の研究会の研究テーマに対して、図書館がコンパクトに必要な情報を支援するとよいと思う(学校関係者)
- ・授業で使用するような資料を学校へ持って来てくれるような物流体制がほしい(学校関係者)
- ・図書館、子育てサロン等に子どもを連れて行くと、ファミリーサポートセンター、つどいの広場、一時保育等、色々なところのチラシやパンフレットが一括でまとまっているとありがたい(福祉会館職員)
- ・学校図書館の充実。「学校の中で唯一の居場所が図書館」というような子もいる。司書と話したり読んだり

することが心の支えになっている。貧困家庭支援なども(市民)

エ イベント

子育て世代からは育児に役立つイベントを求める発言がみられた。それらのなかには悩んでいることを参加者同士で互いに共有できるような講座を求める声もみられた。また、単なる本に関するだけでなく、体験型・参加型のイベントを求める意見が多かった。平塚関係者の出版イベントの実施提案もあった。そもそもイベントを望んでない人もいることから、イベントを定期開催にして、望んでない人はその日は避けることを可能にするという発言があった。

主な発言

- ・予約制ではなく自由に参加できるお話会(福祉会館職員)
- ・子育てや離乳食について教えてくれる講座(子育て世代)
- ・子どもを預けられる母の会など共通の悩みを持った方を対象のイベントを開催するとよい(高齢者)
- ・子どもの発達がゆっくりであることに不安を感じている。このような子ども対象のお話会や同じような立場を経験している方の体験談を聞けるようなイベントをしてほしい(子育て世代)
- ・植物図鑑などでレクチャーし、外にも出て、見て触るような体験型のイベント(高齢者)
- ・身近なことを学べる講演(高齢者)
- ・調べ方講座があるとよい。生徒が早いうちに図書館の使い方や調べ方の方法を知っているとないのでは、その後の学習のやり方に大きな差が出てくる(学校関係者)
- ・気に入った分野のイベントなら参加するかもしれない。ヨガ、太極拳とか健康によい体を動かすイベントがいい。本だけだったら行かない(高齢者)
- ・知的な層に向けたイベント、雰囲気やセンスを感じるものは行ってみようと思う。手作り感じゃなく(勤労者)
- ・読書会(ビジネス)。平日夜。朝は市内の人だけになってしまう(勤労者)
- ・平塚関連の出版した人の出版記念イベントを開催し、当日はトークイベント(10～15分)と販売をする。本の販売と地元へのPRができれば、報償費はいらない(勤労者)
- ・講座やイベントがあっても参加しない(高齢者)
- ・図書館に来る人はイベントを望んでいないのでは(勤労者)
- ・第〇曜日はイベントの日とすれば、うるさいのが嫌な人は来ないし、新しい人が来るきっかけになってよいかも(勤労者)

オ 図書館職員

職員に関しては、児童サービスやレファレンスサービスに長けた能力を有する等、図書館職員の専門性を求める意見がみられた。また、外部との人事交流や司書資格に関する発言もみられた。

主な発言

- ・こども室には専門の人を置いて、室内を歩き回ってほしい(図書ボランティア)
- ・生徒の学びをサポートするコンシェルジュ(学校関係者)
- ・ブックセクターがほしい(勤労者)
- ・カウンターで、もし最初に読もうと思っていた資料がなくても、質問で掘り下げ、別の資料を提供するような、期待を裏切らない図書館(学校関係者)
- ・(市に対して)企業との人事交流をやらないのか、経産省とパソナとがやっていたりする。管理職レベルでも(勤労者)

- ・体系的なことができるかどうかは、司書資格を持っているかどうかで違う(勤労者)

カ 場としての機能

中高生が相談しながら学習できる、子育て世代が子どもを連れながら談笑と読書ができる、高齢者が孫と一緒に来られるような施設やスペース、また、勤労者が調べ物もできるような図書館でのコワーキングスペース等、コミュニケーションをとれる場としての機能を求める発言がみられた。

主な発言

- ・生徒が集まって勉強や相談、談話ができるような開けたスペースがほしい。例えば大学などにあるグループで利用できるワークスペースでモニターなどが使えるような設備もよいと思う(学校関係者)
- ・ママ友同士で集まる場所がなく困っている。子どもも座れる椅子や机などがあってご飯を食べながら、そして本も読めるスペースがあれば人が集まる(子育て世代)
- ・子ども達とおばあちゃんとが手をつないで来ることができるような施設がほしい。これまでは、単独の1つだけ、一方だけというような施設だったと思うがこれからはそうではない(高齢者)
- ・子どもや大人(幅広い世代)が出入りする図書館(学校関係者)
- ・平塚市にもコワーキングスペースはあるが、それだけだと難しい。調べ物をしようと思った時に本がない。図書館にあればすぐに本を調べることができる(勤労者)

6 もし図書館が統廃合したらどう思うか

子育て支援施設のインタビューから施設の統廃合や地区館廃止についての質問を加えた。

(1) 非利用への転換

施設が遠くなると、図書館の利用をやめてしまうという発言がみられた。

主な発言

- ・自転車15分(の距離)だから図書館にいけるが、バスを使わなければならないようだと利用しなくなる(子育て世代)
- ・図書館は近いと気軽に行けるが、遠くなってしまうと、そこまでして行かなくなる(子育て世代)
- ・小さい子連れだと自転車。歩きはつらい(子育て支援施設職員)

(2) 現サービス網への発言

現在の図書館の施設配置に対して肯定的な意見がある一方で、山側(金目・土屋方面)の地区に図書館がないという意見がみられた。図書館があることによって市のイメージが向上すること、現在は利用していないが、将来的な図書館利用を想定して家を購入したという意見がみられた。

主な発言

- ・ところどころに図書館があると平塚のイメージがよくなる(子育て支援施設職員)
- ・家を購入して住んでいるが、図書館や博物館があり、将来子どもが大きくなったときに利用することを考えて家の場所を決めた(子育て世代)
- ・現在が最低であるべき姿だと思う。減らすよりも逆に増やしてほしい(高齢者)
- ・地区館が3館あるから行きやすい(市民)
- ・近隣の市区町村から地区図書館とあおぞら号を持っているのは理想的な配置だと思われているのに、それを手放すのはもったいない(市民)
- ・山側に図書館がない(図書ボランティア)
- ・駅周辺にいと車を必要ないと思うようになり、(徒歩圏内ではない)図書館に行かなくなる(勤労者)
- ・歩ける範囲で図書館・博物館・美術館があり、図書館が動くよりはここを発展させたほうが市民にとってうれしい(勤労者)

(3) 指定管理者制度・民間委託に関する発言

指定管理者制度・業務委託に関連することに話が及んだ。指定管理者制度に関しては、市民の意見が図書館運営に反映されないこと、指定管理費用について危惧する発言がある一方で、デザイン面などで集客の工夫を感じているという肯定的な意見もみられた。

主な発言

- ・指定管理業者は更新時に費用が2倍になった例を聞いている。そういった面でも指定管理は避けるべき(市民)
- ・指定管理では市民の意見が反映できなくなるのではないか(市民)
- ・(他自治体の経験を踏まえて)指定管理者制度は夢のような話ではない(市民)
- ・民間の力を使うことによって数字をあげなきゃいけないことが増える(勤労者)
- ・読書層はインテリ系だと思うので、そこに向けたイベント(の開催は指定管理の方がよい)。読まない層も含めて広報するとぼやける。TSUTAYAなどは(デザイン等)ターゲット設定を感じられる(勤労者)

(4) 図書館の役割・機能に関する発言

現在利用していない人からも老後や子どもたちのために図書館環境の維持を望む発言がみられた。また、行政サービスの評価を、すべての世代に関わる図書館・博物館・美術館運営で判断しているという意見がみられた。

主な発言

- ・今はお子さんが座ってられないという話を聞くので、図書館のような場所は大切(子育て支援施設)
- ・大人になると本を読めなくなる。若いときに本を読むことができる環境があることが大切(子育て世代)
- ・自分自身は図書館を利用しないが、学生などのためにも、図書館はあった方がよい(子育て世代)
- ・今は仕事があるので行けないが、老後はいっぱい行こうと思っている(勤労者)
- ・図書館ユーザーなのでなくなったらさみしい(勤労者)
- ・今あるサービス、レファレンスやイベントものがダウンするのはもったいない(勤労者)
- ・市を何で判断するかというと、図書館、博物館、美術館などで判断する。蔵書の量ではなく、きちんと運営されているところがよい市だと思う。行政サービスは子育て支援や健康など年代によって変わってくるが、館(やかた)は全ての世代にかかわる(勤労者)

(5) 代替案・移転先に関する発言

地区館を廃止する場合は、予約受取やおおぞら号の強化を求める意見がみられた。公民館図書室は現状のままでは使いにくいこと、商業施設に移転の場合には10万冊規模の蔵書を求める発言がみられた。また、有料ならば宅配サービスは利用しないという意見もみられた。

主な発言

- ・図書館が駅前に欲しい(勤労者)
- ・主要な駅の近くにあるとよい。ただし、規模は最低でも中央図書館と同じくらいほしい(勤労者)
- ・ららぽーとのまちライブラリーのように行きやすい場所にあるとよい(子育て支援施設職員)
- ・(民間の商業施設に地区図書館を移転する場合)10万冊規模を保つべき(市民)
- ・商業施設などに入れば人は集まると思うが、図書館・美術館・博物館はそれぞれ一つの建物として、県や市がきちんとした形で管理すべきだし、もっとお金をかけるべきだと思う。使うべきところは使ってほしい(勤労者)
- ・公民館図書室は新しい本や冊数が少ないので使いにくい(市民)
- ・地区図書館を少なくするなら、おおぞら号を上手く活用してほしい(市民)
- ・複本がたくさんあるのならば、地区図書館を維持してもよいが、難しいのならば予約の受取りができる場所があればよい。昼間から17時くらいまで使えるような(市民)
- ・有料の宅配サービスなら利用しない(勤労者)

(6) 移動図書館おおぞら号に関する発言(前出あり)

おおぞら号については縮小しても維持を望む発言がみられた。また、子どもたちや友人同士で利用されている発言がみられた。

主な発言

- ・おおぞら号が小学校に来るのをすごく楽しみにしていた。身近なところに来るのがよい(子育て支援施設職員)
- ・おおぞら号は小さくてもあればよい(市民)

- ・あおぞら号が東海大湘南キャンパスにくるとよい(大学生)
- ・友人があおぞら号を利用して、友人同士で「一緒に行こう」と誘い合ったりしている。お年寄りで本が好きな人にはよいと思う(高齢者)
- ・近隣の市区町村から地区図書館とあおぞら号を持っているのは理想的な配置だと思われるのに、それを手放すのはもったいない(市民)
- ・地区図書館3館とあおぞら号があり、市全域を意識していることがよい(市民)

以 上